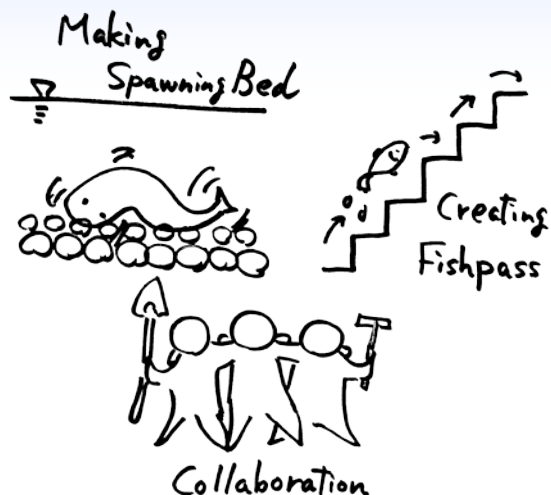


滋賀県で広がる「小さな自然再生」

～多様な主体の協働により在来魚を保全・再生する試み～

琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門 佐藤祐一



「小さな自然再生」とは？

地域住民らが多様な主体と連携し身近な環境を再生すること。小さな自然再生は一般に、①自己調達できる資金規模であること、②多様な主体による参画と協働が可能であること、③修復と撤去が容易であること、の3点を満たします。

滋賀県における「小さな自然再生」事例

大宮川

下流にある放水路、通称「新大宮川」には、全ての落差に1基または2基の魚道が設置されています。しかし堆砂が著しく、回遊魚であるアユの遡上などに影響のあることが明らかになりました。



大宮川におけるアユ等魚道復活

そこで、地元の河川愛護団体（新大宮川を美しくする会）が中心となり、地元住民、環境保全に関心のある市民、大津市、滋賀県、研究者らが協働して、魚道の堆砂を除去する活動などを実施しています。



大浦川における
ビワマス魚道設置・
バースエ設置

高橋川における
ビワマス魚道設置

喜撰川における
アユ等魚道設置

平湖における
フナ等魚道設置

吉川川における
ホタルの自生環境づくり

野洲川南流跡（大川）
における河口部の掘削

渋川

地元漁業組合（愛知川漁業協同組合）が中心となり、地元住民、環境保全に関心のある市民、事業者、東近江市、公益財団法人、滋賀県、研究者らが協働して、落差約2.5mの堰堤に仮設魚道を設置しています。洪水時にも河川水の流下に支障がないように、折り返し構造を持つU字溝を使った魚道としています。



高時川における
バースエ設置

天野川における
ビワマス魚道設置

愛知川における
アーモアコート破壊・
バースエ設置

渋川における ビワマス魚道設置

家棟川におけるビワマス 産卵床・魚道・バースエ設置



ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境を整えるとともに、自然環境の再生や地域の活性化につなげていくことを目的として、2015年度に市民、行政、企業、専門家により構成される「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」を結成しました。

家棟川ビワマスプロジェクトでは主に、①産卵床の造成、②魚道の設置、③遡上調査および監視、という3つの活動を行っています。

家棟川